

## コロナ禍における広島地域の被災者支援活動

(株)テクニコ ((公社) 日本技術士会中国本部防災委員会) ○山下祐一

## 1. はじめに

2021年8月14日、広島地域では時間雨量30mm程度、連続雨量500mmの降雨が降り、土砂災害が発生した。幸いにも、死者はなく、災害規模も比較的小さいものであったが、広島市内では広島市災害ボランティアセンターが立ち上がり、ボランティア活動に参加した。災害時に、まん延防止が発令され、さらに緊急事態宣言も発令される中での生活再建に向けた被災者支援活動について報告する。

## 2. 2021年8月の広島地域の降雨と土砂災害

広島市内では8月12日～14日にかけて大雨となった。気象庁広島三入地区の雨(図-1)は、12日の日雨量73.5mm、最大時間雨量22.5mm、13日の日雨量199.5mm、時間雨量32.5mm、14日の日雨量227mm、時間雨量37.0mm、連続雨量500mmを超える雨量となった。14日午後、大雨特別警報が出され、広島市西区田方3丁目、安佐南区山本6丁目等で被害が発生した。

広島市西区田方3丁目では、流域面積が小さいところで土石流が発生し、下流の住宅地を襲った。特に土石流の氾濫開始点では、土石流の速度も大きく、全壊家屋が発生するとともに、住宅地を巻き込みながら流下し堆積した。土石流の高さは3m位、氾濫幅は40m程度、長さは200mに達した。この土石流には流木はあるものの、大きな岩塊がないために大きな被害に至らなかったと思われる。土石流による被害状況は図-2に示す。その後、11月には応急対策として氾濫開始点に強靱ワイヤーネットが設置された。土石流の発生場所は、山頂に近い箇所、幅20m位、長さ50mの10°～15°比較的勾配の緩い傾斜を示す崩壊形状を示し、その下流は急な勾配となっている。その様子は図-2に示す。崩壊源頭部には不安定土砂が1000m<sup>3</sup>以上存在し、今後も注意を要する。ただ、崩壊源頭部の不安定土砂は、岩塊がほとんどなく、まさ土が主体であるため、この災害では被害が最小限にとどまったものと考えられる。

8月14日の土砂災害を発生させた雨量は、広島三入で最大1時間雨量37mm、連続雨量500mmに達しているもので、大規模な土砂災害が発生してもおかしくないが、実際には幸いにも死者なしで小規模なものであった。この理由としては、連続雨量は大規模災害を発生させてもおかしくないものの、雨量強度の最大1時間雨量が災害発生場所では30mm程度と言われており、雨量強度により災害が拡大することが考えられる。2014年8月20日の広島豪雨災害、2018年7月6日の西日本豪雨災害、2021年8月14日の雨量について、広島市安佐南区、西区を対象として考えた場合の広島三入の雨量を整理すると図-3のようになる。

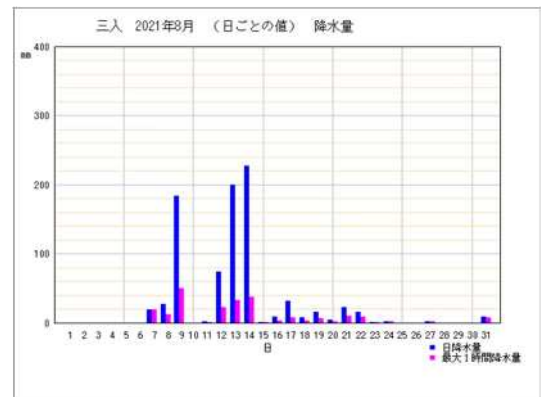


図-1 広島三入 2021年8月降雨量



図-2 土砂災害氾濫開始点と崩壊発生部

この理由としては、連続雨量は大規模災害を発生させてもおかしくないものの、雨量強度の最大1時間雨量が災害発生場所では30mm程度と言われており、雨量強度により災害が拡大することが考えられる。2014年8月20日の広島豪雨災害、2018年7月6日の西日本豪雨災害、2021年8月14日の雨量について、広島市安佐南区、西区を対象として考えた場合の広島三入の雨量を整理すると図-3のようになる。

### 3. コロナ禍における被災者支援

8月14日に発生した広島市西区や安佐南区の土砂災害について、(公社)日本技術士会中国本部が参加している広島県災害復興支援士業連絡会(以下士業連絡会という)に、広島市から広島市災害ボランティア活動調整会議を8月19日に開催する連絡が入り、参加した。広島市災害ボランティア活動調整会議は、広島市社会福祉協議会、広島市危機管理課、広島市市民課などとともに、士業連絡会をはじめ日本赤十字や青年会議所などの民間も参加して、今回の災害に対して広島市災害ボランティアセンター(VC)を立ち上げるかどうかの協議を行った。この結果、土砂災害の被害状況及び土砂災害に対する被災者の支援の要望も高いことから、新型コロナウイルス感染症のまん延防止対策が発令されていたものの、広島市災害VCを立ち上げることとなった。

広島市災害VCは8月22日から西区と安佐南区で開設し、その後の経過は図-4のとおりである。広島市災害VCの活動の様子は図-5のとおりである。ボランティアの募集については、まん延防止対策が発令されていることもあり、当初広島市内のボランティアの希望者に限ることとなった。さらに、8月26日から緊急事態宣言が発令されたことから、地元関係者やボランティア調整会議のメンバーに限る対応に変更した。広島市災害VCの活動は幸いにも災害の被害が大きくなかったことから、9月12日で広島市災害VCの活動は終了した。9月15日には広島市災害ボランティア活動調整会議が開催され、広島市災害VCの活動内容が報告された。その後も生活再建

に向けた相談会が9月26日に開催された。今回、日本技術士会中国本部防災委員会から11名の参加があり、士業連絡会からは35名の参加であった。実際のボランティア参加者は1,357名に達した。今回の広島市災害VCの活動はコロナ禍の中、会社の参加制限もあり参加が少なかったものの、士業連絡会では法律系、技術系、福祉系がそれぞれ参加したことは意義があったと思われる。日本技術士会中国本部防災委員会からは、私をはじめ5名が参加し、参加の方々には感謝する次第である。今回、士業連絡会と連携したボランティア活動は、災害の様子も把握しながらの参加であり、関係者と顔の見える関係もできたことから、今後の災害の被災者に対する支援活動は関係者と連携した対応できると考えられる。

### 4. おわりに

2021年8月14日に発生した広島地域の土砂災害は規模が比較的小さかったものの、新型コロナウイルス感染症の中での被災者支援の活動は、今後の被災者支援活動の参考になった。災害後の生活再建や復興まちづくりにおいても重要な体験となり、行政と専門士業の連携や協力等が推進できたと考えられ、今後の活動に活用できると考えられる。

参考文献 山下祐一：2021年の災害を考える，日本技術士会中国本部会報，No. 23, pp. 43-48, 2022. 3

年月日	災害規模	最大1時間雨量	連続雨量
2014/8/20	大規模	101mm	257mm
2018/7/6	小規模	33.0mm	381mm
2021/8/14	小規模	37.0mm	500mm

図-3 広島三入の災害発生降雨

月日	内容
8/14	広島市西区、安佐南区で土砂災害発生
8/19	広島市災害ボランティア調整会議、VC決定
8/22	広島市災害VC開設(西区、安佐南区区)
8/26	緊急事態宣言の発令(VC活動制限)
9/12	広島市災害VC活動終了
9/15	広島市災害ボランティア調整会議、VC報告
9/23	専門士業による被災者生活再建訪問

図-4 広島市災害ボランティアセンターの活動経緯



図-5 広島市西区VCの田方3丁目の前線基地状況